

手話パフォーマンス甲子園実行委員会企画推進会議 (令和元年度第4回)

日時：令和2年2月17日(月) 午前10時～正午
場所：鳥取県庁 特別会議室(議会棟3階)

1 開 会

2 委員長あいさつ

3 報告事項

- (1) 第7回全国高校生手話パフォーマンス甲子園基本計画について(資料1)

4 議 題

(1) 議案第1号

第7回全国高校生手話パフォーマンス甲子園開催要項(案)について(資料2)

(2) 議案第2号

第7回全国高校生手話パフォーマンス甲子園予選審査及び本大会出場チーム選考実施要領(案)について(資料3)

(3) 議案第3号

第7回全国高校生手話パフォーマンス甲子園本大会審査実施要領(案)について(資料4)

(4) 議案第4号

第7回全国高校生手話パフォーマンス甲子園 手話パフォーマンスアドバイザー派遣実施要領(案)について(資料5)

5 その他

- (1) 第7回全国高校生手話パフォーマンス甲子園の審査員等の調整について(資料6)

- (2) 今後の日程について(資料7)

- (3) 令和元年度収支予算(補正)について(資料8)

- (4) その他

6 閉 会

手話パフォーマンス甲子園実行委員会企画推進会議 出席者名簿
(令和元年度第4回)

役 職	所属・役職名	氏名(敬称略)	出 欠 (代理:敬称略)
委員長	鳥取県福祉保健部長兼ささえあい福祉局長	宮本 則明	出
委 員	国立大学法人筑波技術大学 教授	大杉 豊	出
	一般財団法人全日本ろうあ連盟 青年部長	吉田 航	出
	公益社団法人鳥取県聴覚障害者協会 事務局次長兼福祉・労働委員会委員長	戸羽 伸一	出
	鳥取県手話通訳士協会	森原 早百合	出
	全国手話通訳問題研究会鳥取支部	国広 生久代	出
	鳥取県手話サークル連絡協議会	田中 優子	出
	社会福祉法人鳥取県社会福祉協議会 常務理事	野間田 憲昭	欠
	鳥取県教育委員会 教育次長 (代理 特別支援教育課 課長)	足羽 英樹 (山本 伸一)	出 (代理出席)
	鳥取県高等学校長協会 会長 (代理 副会長(米子東高等学校長))	御舩 斎紀 (田中 宏)	出 (代理出席)
	鳥取県私立中学高等学校長会 会長	二階堂 茂夫	出
	鳥取県立鳥取聾学校 校長	三王寺 孝子	出
事務局	事務局長(鳥取県福祉保健部ささえあい福祉局障 がい福祉課 社会参加推進室長)	太田 次郎	/
	事務局員(鳥取県福祉保健部ささえあい福祉局障 がい福祉課 社会参加推進室 係長)	大森 宏治	
	事務局員(鳥取県福祉保健部ささえあい福祉 局障がい福祉課 社会参加推進室 非常勤)	河内 大樹	

※手話通訳者：鳥取県聴覚障害者協会



1 目的

ろう者とろう者以外の者が互いを理解し共生することができる社会を築く「鳥取県手話言語条例」の理念を実現すべく、全国の高校生が手話言語を使った様々なパフォーマンスを繰り広げる場をつくり発信することにより、多くの人に手話言語の魅力や手話言語が優れた意思及び情報伝達手段であることを実感してもらうとともに、手話言語とパフォーマンスを通じた交流の推進及び地域の活性化に寄与することを目的に、「全国高校生手話パフォーマンス甲子園」を“手話の聖地”鳥取県で開催する。

2 主催

手話パフォーマンス甲子園実行委員会

3 共催

鳥取県、公益社団法人鳥取県聴覚障害者協会

4 特別協賛

日本財団

5 特別協力

一般財団法人全日本ろうあ連盟

6 後援（予定）

内閣府、厚生労働省、文部科学省、倉吉市、手話を広める知事の会、全国手話言語市区長会、一般社団法人全国手話通訳問題研究会、一般社団法人日本手話通訳士協会、全国聾学校長会、公益社団法人全国高等学校文化連盟、社会福祉法人朝日新聞厚生文化事業団、社会福祉法人NHK厚生文化事業団、社会福祉法人全国社会福祉協議会、全国難聴児を持つ親の会、日本演劇教育連盟、日本障害フォーラム、日本赤十字社鳥取県支部、鳥取県青少年赤十字指導者協議会、朝日新聞社、毎日新聞鳥取支局、読売新聞鳥取支局、産経新聞社、日本経済新聞社鳥取支局、新日本海新聞社、山陰中央新報社、中国新聞鳥取支局、共同通信社鳥取支局、時事通信社鳥取支局、NHK鳥取放送局、BSS山陰放送、日本海テレビ、TSK山陰中央テレビ、テレビ朝日鳥取支局、鳥取県ケーブルテレビ協議会、エフエム山陰、FM鳥取、DARAZ FM

7 開催日及び場所

(1) 本大会

ア 開催日 令和2年9月27日（日）

イ 場所 倉吉未来中心（鳥取県倉吉市駄経寺町212-5）

(2) 交流会

ア 開催日 令和2年9月26日（土）

イ 場所 鳥取看護大学・鳥取短期大学シグナスホール（鳥取県倉吉市福庭854）

(3) 予選審査会・結果発表

ア 開催日 令和2年7月30日（木）、31日（金）

イ 場所 鳥取県庁

8 参加募集

令和2年5月18日（月）から7月3日（金）まで ※予選審査動画の提出期限：7月17日（金）

9 参加資格

高等学校（中等教育学校の後期課程を含む）・特別支援学校高等部・高等専門学校（3年生まで）・専修学校及び各種学校の修業年限が高等学校と一致している生徒（校長の推薦書が必要）

10 演技内容

手話言語を使った歌唱、ダンス、演劇、ポエム、コント、落語、漫才など

（予選審査：3分以内、本大会：6分以上8分以内）

11 本大会出場チーム

予選審査を通過した15チーム

①地方ブロック枠：6チーム、②得点順枠：6チーム、③合同チーム枠：1チーム、

④初出場枠：1チーム、⑤開催地枠：1チーム から選出

12 表彰

優勝、準優勝、第3位、審査員特別賞、全日本ろうあ連盟賞、日本財団賞、鳥取県聴覚障害者協会賞、手話パフォーマンス奨励賞を授与する。

13 審査

(1) 予選審査会

ア 審査方法

演技動画視聴（3分以内）による審査を行い、手話言語の正確性・分かりやすさと演出力・パフォーマンス度の観点から採点し、本大会出場チームを決定する。

イ 審査員

4名（聞こえる人2名、ろう者2名）

(2) 本大会

ア 審査方法

ステージ演技（6分以上8分以内）による審査を行い、手話言語の正確性・分かりやすさと演出力・パフォーマンス度の観点から採点し、各受賞チームを決定する。

イ 審査員

6名（聞こえる人3名、ろう者3名）

14 本大会及び交流会の内容

(1) 本大会

ア 時間（予定）

午前9時30分から午後4時まで

イ プログラム

- 1) 開会式（関係者挨拶、優勝旗返還、選手宣誓、チーム紹介等）
- 2) 出場チーム演技（演技時間：1チーム当たり6分以上8分以内）
- 3) ゲストパフォーマンス
- 4) 審査結果発表・表彰式
- 5) 閉会

(2) 交流会

ア 時間（予定）

午後6時から午後8時まで（午後7時30分から午後8時までは高校生同士の交流時間とする）

イ 参加者

出場チーム（生徒・引率者）、出演者（司会、審査員等）、来賓、実行委員会関係者等

ウ プログラム

- 1) 関係者挨拶、乾杯
- 2) 歓談
- 3) 出場チーム抱負 等

15 その他

- ・大会の裾野の拡大やレベル向上を図るため、これまで予選を通過したことのない学校を対象に、手話及び演技についてアドバイスできる者（手話パフォーマンスアドバイザー）を希望する学校に抽選で派遣する
- ・ろう者とろう者以外の者との交流促進のため、大会への参加が、学校と各都道府県聴覚障害者協会との交流の契機となるよう、参加申込みした旨を学校から協会へ情報提供することを推奨する
- ・大会に関わることにより手話への理解・関心を広めるため、高校生の大会運営等への参加を進める



第7回全国高校生手話パフォーマンス甲子園 開催要項 (案)

1. 目的

ろう者とろう者以外の者が互いを理解し共生することができる社会を築く「鳥取県手話言語条例」の理念を実現すべく、全国の高校生が手話言語を使った様々なパフォーマンスを繰り広げる場をつくり発信することにより、多くの人に手話言語の魅力や手話言語が優れた意思及び情報伝達手段であることを実感してもらうとともに、手話言語とパフォーマンスを通じた交流の推進及び地域の活性化に寄与することを目的に、「全国高校生手話パフォーマンス甲子園」を“手話の聖地”鳥取県で開催する。
2. 大会概要
 - (1) 大会名 第7回全国高校生手話パフォーマンス甲子園 (以下「本大会」という。)
 - (2) 日時 令和2年9月27日(日)
午前9時30分から午後4時まで(時間は予定)
 - (3) 会場 倉吉未来中心 大ホール (鳥取県倉吉市駄経寺町 212-5)
 - (4) 出場 予選審査を通過した15チーム
 - (5) 内容 以下のとおり

- ①開会式(関係者挨拶、優勝旗返還、選手宣誓、チーム紹介)
 - ②出場チーム演技(演技時間:1チーム当たり6分以上8分以内)
 - ③ゲストパフォーマンス
 - ④審査結果発表・表彰式
 - ⑤講評・閉会
3. 主催 手話パフォーマンス甲子園実行委員会
4. 共催 鳥取県、公益社団法人鳥取県聴覚障害者協会
5. 特別協賛 日本財団
6. 特別協力 一般財団法人全日本ろうあ連盟
7. 後援 内閣府、厚生労働省、文部科学省、倉吉市、手話を広める知事の会、全国手話言語市区長会、(予定) 一般社団法人全国手話通訳問題研究会、一般社団法人日本手話通訳士協会、全国聾学校長会、公益社団法人全国高等学校文化連盟、社会福祉法人朝日新聞厚生文化事業団、社会福祉法人NHK厚生文化事業団、社会福祉法人全国社会福祉協議会、全国難聴児を持つ親の会、日本演劇教育連盟、日本障害フォーラム、日本赤十字社鳥取県支部、鳥取県青少年赤十字指導者協議会、朝日新聞社、毎日新聞鳥取支局、読売新聞鳥取支局、産経新聞社、日本経済新聞社鳥取支局、新日本海新聞社、山陰中央新報社、中国新聞鳥取支局、共同通信社鳥取支局、時事通信社鳥取支局、NHK鳥取放送局、BSS山陰放送、日本海テレビ、TSK山陰中央テレビ、テレビ朝日鳥取支局、鳥取県ケーブルテレビ協議会、エフエム山陰、FM鳥取、DARAZ FM
8. 参加資格
 - (1) 令和2年度に高等学校(中等教育学校の後期課程を含む。)、特別支援学校高等部、高等専門学校(3年生まで)、専修学校及び各種学校(修業年限が高等学校と一致している生徒に限る。)に在籍していること。
 - (2) 本大会に参加することについて、校長の承認が得られていること。また、参加する生徒について、校長の推薦が得られていること。
 - (3) 本大会への参加に当たって、原則として在籍する学校の教職員が引率できること。
 - (4) 原則として、本大会の全日程及び本大会前日のリハーサル及び交流会に参加できること。
9. チーム編成

1チームの編成は、同一校又は複数校で編成するチームの生徒及び引率者とし、生徒は演技者の他、演技の補助者や必要に応じてチームの介添え者を含めることとする。人数は最大で生徒20人以内、引率者10

人以内とし、予選参加者は原則として本大会に出場できる生徒とする。ただし、予選審査後に生じたやむを得ない事情等がある場合は、本大会に出場する生徒を変更（若干名の増減）できるものとする。

同一校からの複数チームの参加申込みは可能とするが、本大会に出場できるのは予選審査で同一校中、最上位のチームのみとする。なお、同一メンバーで複数チームの参加は認めない。

10. 演技内容等

- (1) 手話言語を使った歌唱、ダンス、演劇、ポエム、コント、落語、漫才などのパフォーマンスで、表情も含め手話言語を正確に使いながら、伝えようとする意志をしっかりと持ち、工夫された演出や構成と豊かな表現力により演じられるものとする。なお、審査基準としては、必ずしも音（音声や音楽など）を用いる必要はないことを申し添える。
- (2) 本大会での演技時間は、6分以上8分以内とする。なお、予選審査会においては、3分以内の動画を提出するものとする。
- (3) 演技スペースは、概ね間口10メートル、奥行5メートルの範囲とする。なお、演技中に演技スペースから舞台袖への出入りは可能とする。
- (4) 情報保障の観点から、演技中、歌詞やセリフ等には字幕を必ず表示させること。字幕は、予選審査動画においては映像の中に、本大会においては演技スペース後方に設置するスクリーンに表示させること。なお、本大会の演技中は、主催者側で歌詞やセリフ等の要約筆記等を行わない。
- (5) 舞台上での演技（音声によるナレーション等の演技補助を含む）は全て生徒が行うこととし、字幕表示、音響・照明のキュー出し等、演技以外の舞台進行に係る作業は生徒が主体的に行うよう努めること。
- (6) 演技の補助として、簡素な小道具、舞台装置、背景、スクリーン等のみ使用を認める。（概ね1分以内に準備が完了できるものに限る）なお、演技で使用する小道具等及び会場にない設備（特殊な照明や音響等）を使用する場合は、原則として各チームにおいて用意すること。なお、これらの使用については、本大会前に舞台監督と詳細を打ち合わせすること。
- (7) スクリーンに表示する内容について、字幕の他、演技のイメージを伝える画像の使用は認めるが、動画の使用は認めない。なお、著作権が発生する画像等をスクリーンに表示させたい場合は、著作権を侵害することのないよう自チームにて会場、ライブ配信及び大会後の公開映像での当該画像等の使用について、全て著作権者の許可を得ること。なお、このことから、可能であれば自チームで制作した著作権の発生しない画像等を使用することが望ましい。
- (8) 予選審査における動画の撮影ルール等の取り扱いは、別途提示する。なお、予選審査に複数の演技内容の動画を提出することは認めない。
- (9) 舞台上の演技者が演技の主体となるように構成すること。なお、演技者とスクリーンの視聴は両立しないことを前提に、あくまで演技者に観客の目を向けさせるような構成に努めるとともに、スクリーンの使用は字幕の表示を中心に、画像の使用を必要最小限とすることが望ましい。
- (10) 歌唱を行う際は、発話が困難な場合を除き、CD音源や事前収録した音源を歌唱に利用する（いわゆる口パクやかぶせ）のではなく、自ら発声する方法で本番（予選審査を含む。）に挑戦してほしい。なお、CD音源や事前収録した音源の歌唱利用を禁止するわけではないので、申し添えておく。
- (11) 本大会において演技中にCD音源を使用する場合、当日会場でのCD音源使用に係る著作権対応は主催者で行う。なお、インターネット（YouTube）で後日公開する映像については、著作権者の許可が得られないものは、CD音源部分の音声（歌唱やセリフ等）を消去する。
- (12) 演技時に自チームの完全なオリジナル作品ではない著作物を引用等する場合（シナリオや美術道具、ダンス等）は、会場での上演や、本大会当日のライブ配信、大会後の演技映像の公開にあたって、著作権を侵害することのないよう自チームにおいて事前に対処しておくこと。なお、音楽については(11)のとおりだが、楽曲の改変（歌詞を変えたり、編曲するなど）に該当する場合は、著作権者の許可が必要となるため、自チームにおいて対処しておくこと。

11. 審査方法

- (1) 主催者が委嘱した審査員が審査及び採点を行う。
- (2) 審査員は、予選審査会4名、本大会6名から構成し、審査員の中から主催者が審査員長を選出する。
- (3) 予選審査は、参加申込みチームが提出した演技動画を視聴する方法により、審査員が行う。
- (4) 予選審査会及び本大会の審査基準、採点方法、演技時間の計測方法等は、別途定める。

12. 参加申込み方法

- (1) 申込期間 令和2年5月18日(月)から7月3日(金)まで【必着】
※予選審査動画の提出期限は、令和2年7月17日(金)まで【必着】
- (2) 提出資料 別紙のとおり
- (3) 補足事項
 - ア (2)の資料は、13.の申込み先まで指定する方法及び期限に沿って提出すること。
 - イ 本大会における参加者の個人情報等については、別添のとおり取り扱うので、同意の上、参加申込みを行うこと。
 - ウ 予選審査用の演技動画の提出期限は、令和2年7月17日(金)までとする。まずは、(1)の期間中に参加申込みを行うこと。
 - エ 参加申込み及び予選審査動画は、各期限日必着とする。資料は期限日までに余裕を持って提出するよう努めること。なお、資料提出した際、その旨を大会事務局に電話連絡すること。
- (4) その他
各学校と各都道府県聴覚障害者協会（以下「協会」という。）との関わりが生まれる契機となるよう、参加申込みした旨を協会に情報提供することが望ましい。

13. 申込み先・問合せ先

〒680-8570 鳥取市東町一丁目 220 番地
手話パフォーマンス甲子園実行委員会事務局
(鳥取県福祉保健部ささえあい福祉局障がい福祉課内)
電話：0857-26-7682 FAX：0857-26-8136 Eメール：s-koushien@pref.tottori.lg.jp

14. 参加料 不要

15. 助成金

出場チーム（生徒、引率者）に、次のとおり交通費、宿泊費の一部を助成する。なお、助成申請方法等については、別途事務局が示す手続きによること。

- (1) 交通費（領収書等必要）
実費相当額を助成（1チーム当たり250,000円を上限とする。）
- (2) 宿泊費（領収書等必要）
実費相当額を助成（1チーム当たり85,000円を上限とする。）

16. 表彰

表彰は次のとおりとする。

- (1) 優勝（賞状、優勝旗、メダル、副賞を授与する。）
- (2) 準優勝（賞状、準優勝楯、メダル、副賞を授与する。）
- (3) 3位（賞状、メダル、副賞を授与する。）
- (4) 審査員特別賞（賞状、副賞を授与する。）
- (5) 全日本ろうあ連盟賞（賞状、副賞を授与する。）
- (6) 日本財団賞（賞状、副賞を授与する。）
- (7) 鳥取県聴覚障害者協会賞（賞状、副賞を授与する。）
- (8) その他、上記受賞チーム以外の全ての本大会出場チームに手話パフォーマンス奨励賞を授与する。

17. 予選審査会

- (1) 日程 令和2年7月30日(木)及び31日(金)
- (2) 場所 鳥取市内
- (3) 内容 参加申込みチームが提出した予選審査動画の視聴により審査を実施し、本大会に出場する15チームを選出する。
- (4) 結果 令和2年7月31日(金)に審査結果発表会を公開して行う(インターネットでライブ中継あり)。なお、発表会終了後、公式ホームページ上に審査結果を掲載する。
- (5) その他 上記(4)の審査結果発表会の際に、本大会の各チームの演技の順番及び選手宣誓を担当するチームを抽選で決定する。(本大会出場チーム発表後に、抽選を行う。)

18. 交流会

- (1) 日 時 令和2年9月26日(土)
午後6時から午後8時まで(時間は予定)
- (2) 場 所 鳥取看護大学・鳥取短期大学シグナスホール(鳥取県倉吉市福庭854)
- (3) 内 容 出場チームや大会関係者等が一堂に会し、食事を交えて交流を深めるもの。
- (4) その他 参加者の交流を深める目的であることから、原則として参加すること。(参加費は不要。)

19. スケジュール

令和2年(2020年)

- | | |
|----------|---|
| 1月31日(金) | 本大会の開催決定 |
| 2月下旬 | 開催要項等公表 |
| 5月18日(月) | 参加申込み受付開始 |
| 7月3日(金) | 参加申込み締切 |
| 7月17日(金) | 予選審査動画の提出締切 |
| 7月30日(木) | 予選審査会 |
| 7月31日(金) | 予選審査会、審査結果発表(結果発表、本大会演技順及び選手宣誓チームの抽選決定) |
| 8月28日(金) | ヒアリングシートの提出(演技内容の詳細(シナリオ・楽曲等)の報告) |
| 9月26日(土) | リハーサル、交流会 |
| 9月27日(日) | 本大会 |

20. その他

- (1) 本大会前日に本大会と同会場ですべてのチームがリハーサルを実施する。なお、各チームのリハーサルのスケジュールは、会場までのアクセスや本大会の発表順等を考慮して事務局にて指定する。また、できる限りの配慮は行うが、午前中からリハーサルを開始する関係で、本大会前々日から宿泊が必要となる場合もあるので承知すること。
- (2) 高校生による手話言語の祭典であるという観点から、演技時だけではなく、演技後のインタビュー時の応答や、交流会での各チームの発表、その他様々な発表の機会や交流の場面においても、各自ができる範囲で、積極的に手話言語の使用に挑戦してほしい。
- (3) 受賞チームは、本大会閉会后、可能な限り報道機関等のインタビューに応じること。
- (4) 本大会の演技は、後日、手話パフォーマンス甲子園☆動画チャンネル(YouTube)上に、全て公開する。
- (5) 本大会出場チームが確実に宿泊できるよう宿泊先の斡旋を行う予定。(利用は任意)
- (6) 引率代表者は、事務局との連絡調整を担当すること。なお、主に電子メールにて頻りに連絡等を行うこととなるため、参加申込み後は小まめに電子メールの受信を確認するよう努めること。
- (7) 本大会出場チームには、予選審査結果発表後に各種資料等の提出をお願いすることとなる。この時期が夏休み及びお盆期間と重なるので、引率代表者は事務局及びチーム内の円滑な連絡調整ができるよう留意すること。
- (8) 予選参加申込み及び本大会出場に係る事務局への提出物は、返却しない。
- (9) 本大会出場チームは、可能な範囲で、9月23日の「手話言語の国際デー」に合わせた大会PR等に協力すること。(詳細は別途案内)

[別 紙]

第7回全国高校生手話パフォーマンス甲子園参加申込み方法・提出資料について

1 参加申込方法

原則、公式ホームページに URL リンクを掲載する「とっとり電子申請サービス」の申込フォームに、各提出資料の電子ファイルを添付して、参加申込みをしてください。

※インターネットが利用できない等の場合は、事務局に御相談ください。

※複数回の資料提出になりますが、参加申込期限は7月3日(金)ですので御注意ください。

回	提出資料	期限	提出方法
1	①参加申込書、②校長承認及び推薦書	7月3日(金)	公式ホームページに URL リンクを掲載する「とっとり電子申請サービス」の申込フォームに各提出資料の電子ファイルを添付してください。
2	③予選参加者名簿、④チーム紹介文、⑤予選審査演技情報、⑥チーム画像	7月17日(金)	※受付が完了すると自動返信メールが到着しますので御確認ください。
	⑦予選審査動画	7月17日(金)	参加申込書等を提出後、事務局からメール送信するファイル送信サービス「DECO」にて提出してください。

2 提出資料

提出資料	提出ファイル形式	提出期限	補足事項
①参加申込書 [様式第1号]	Word	7月3日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・申込者は、引率代表者としてください。なお、引率代表者の方に事務局と連絡調整を行っていただけます。 ・複数の学校による合同チームの場合は、全ての学校名(正式名)を記載してください。 ・事務局が公表するチーム名は学校名とします。なお、この場合、〇〇県立△△高等学校(公立)、学校法人□□学園◇◇高等学校(私立)の「〇〇県立」や「学校法人□□学園」の記載は省略し、学校名のみ表記します。
②校長承認及び推薦書 [様式第2号]	PDF	7月3日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・校長印を押印の上、提出してください。なお、原則として校長印は公印としてください。ただし、公印が遠方にある等、やむを得ない事情がある場合は、校長の私印でも可とします。
③予選参加者名簿 [様式第3号]	Excel	7月17日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・校長推薦が得られた生徒名を御記入ください。 ・予選参加生徒は、原則として、本大会に参加できる生徒としてください。
④チーム紹介文 [様式第4号]	Word	7月17日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・100文字以内でチーム紹介を行ってください。 ・高校生らしい元気で明るいメッセージを寄せてください。 ・大会公式HP等に掲載します。(予選参加チームの紹介)
⑤予選審査演技情報 [様式第5号]	Excel	7月17日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・提出する予選審査動画の演技情報を記載してください。 ・審査員が審査にあたって参考とする情報となります。
⑥チーム画像	JPEG (カラー)	7月17日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・横640×縦480ピクセル以上の解像度、フルカラー。 ・予選参加者名簿に掲載されている生徒全員の顔が写っている画像としてください。 ・公式HP上にチーム画像を掲載(公開)しますので、同意の上、提出してください。なお、公式HPへの画像掲載を望まない場合は、個別に対応を検討しますので、事務局まで御連絡ください。
⑦予選審査動画	AVI、MPEG、MP4、WMV のいずれか	7月17日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・撮影方法等の詳細は、別添の「第7回全国高校生手話パフォーマンス甲子園予選審査動画撮影要領」をご確認ください。なお、同要領に定められたルールのとおり撮影されていない場合、失格又は減点となる可能性がありますので、ご注意ください。

本大会への出場にあたって必要となる提出物（予定）

令和2年7月31日(金)の予選審査結果発表後、本大会出場チームには、以下の資料を提出していただくよう予定しています。

提出物の準備期間が夏休みやお盆期間と重なりますが、予選参加申込みチームの皆様におかれましては、8月中であっても生徒、教師、事務担当者等の関係者と円滑な連絡調整を行うことができるよう十分に御留意ください。

なお、本大会出場決定後、本大会出場まで、短期間で本大会の準備が進むこととなります。ご理解・ご協力をよろしくお願いします。

【予定する提出物の例】

提出物	内容	提出時期
チーム行動スケジュール	利用する交通手段（行き・帰り）、鳥取県に到着する時間又は大会終了後の鳥取県を出発する時間、具体的な旅程、宿泊日及び宿泊先 など	8月中旬（お盆明け）
参加者名簿	様式第3号に類似。最新情報に更新。大会プログラムに掲載予定。	8月下旬
チーム紹介文	様式第4号に類似。最新情報に更新。様式第4号に対して、指定文字数が増加する予定。大会プログラム、HPに掲載予定。	8月下旬
チーム集合写真	修正の希望がある場合。大会プログラム、HPに掲載予定。	8月下旬
演技情報	様式第5号に類似。本大会の演技内容に基づくもの。	8月下旬
個人情報等取扱同意書	個人情報、肖像権、著作権の取扱いに係る同意書。生徒及び保護者の自署又は押印が必要。	8月下旬
ヒアリングシート	演目内容（構成・曲順・時間割等）、スクリーンや音源の使用データの確認、使用機材等、ステージ配置図、チーム要望、舞台監督との具体的な連絡調整の担当者、リハーサル内容 など	8月下旬
チーム紹介映像	本大会の発表時に冒頭でチームを紹介するために使用する映像（20秒程度を予定）。音声又は手話のセリフには必ず字幕を表示させること。	9月上旬
本大会演技の映像	本大会当日に目の不自由な方への「音声ガイド」作成のため、本大会と同じ演技内容を撮影した映像（字幕不要）	9月中旬
その他	・自校ののぼり旗（大会会場掲示用。任意。） ・学校紹介パンフレット（既存のもの。大会会場掲示用。）	9月上旬

○ 上記はあくまで現時点の予定です。提出物の内容が変わる場合や、その他に提出を求める場合がありますので、ご了承ください。

○ なお、具体的には、本大会出場チーム決定後、それぞれのチームの引率代表者へご案内します。

第7回全国高校生手話パフォーマンス甲子園参加申込書

年 月 日

手話パフォーマンス甲子園実行委員会 会長 様

学校名：

氏名：

本書のとおり第7回全国高校生手話パフォーマンス甲子園に参加申込みをします。

【参加学校の情報】

学校名（正式名）	ふりがな	住所
		〒 -
		〒 -
		〒 -
		〒 -

- ※ 申込者は引率代表者としてください。
- ※ 複数の学校で参加する場合は、全ての学校を記入してください。
- ※ 同一校から複数のチームが参加申込する場合は、それぞれのチームの参加申込書を提出してください。
- ※ なお、大会にて使用（発表）する学校名は、公立学校の場合は〇〇県立、私立学校の場合は◇◇学校法人等の表記を省略します。

(次ページに続く)

【引率者（チーム代表者）の情報】

ふりがな	
学校名（正式名）	
ふりがな	
氏名	
所属等 （部（サークル名）、役職等）	
電話番号	
メールアドレス	

※ 原則として、引率の代表者を申込者としてください。また、申込者の方に事務局と連絡調整をしていただくことになります。

※ 電話番号及びメールアドレスは、最も連絡を取ることができる番号等（学校の代表電話ではなく、直通の電話番号が望ましい。）を記載してください。なお、複数校による合同チームの場合で、チーム代表者だけでなく、各学校の担当者への連絡も希望する場合は、当該連絡先も記載してください。

【チームの情報】

参加予定人数	生徒	人
	引率	人
（備考）	<p>※ 参加人数は現時点の予定で構いません。（変更可能）</p> <p>※ 複数校による合同チームの場合、学校ごとに参加予定人数が分かるように上のスペースに補記してください。</p>	
演技の分類 （予定）	<p>歌唱・ダンス・演劇・ポエム・コント・落語・漫才</p> <p>・その他 []</p> <p>※ 現時点で予定している演技の分類に○を記載してください。</p>	
過去の本大会 出場実績	<p>有 ・ 無</p> <p>※ 第1回大会から、本大会（本選）出場実績の有無について、該当する方に○を記載してください。</p> <p>※ なお、複数校による合同チームの場合、本大会に出場実績のある学校がいる場合は、「有」に○をしてください。</p>	

第7回全国高校生手話パフォーマンス甲子園 校長承認及び推薦書

年 月 日

手話パフォーマンス甲子園実行委員会 会長 様

学校名：

所在地：

校長名：

印

本校の生徒が「第7回全国高校生手話パフォーマンス甲子園」(以下「大会」という。)へ参加することを承認するとともに、別途提出する予選参加者名簿に記載している本校の生徒を大会の参加者として推薦します。

※ 複数の学校による合同チームの場合は、全ての校長について提出してください。

※ 校長印(原則公印)を押印して提出してください。

第7回全国高校生手話パフォーマンス甲子園 予選参加者名簿

【参加者の概要】

参加 学校数	参加者数	参加者の内訳(人)			引率
		生徒	男	女	
	0	0			

演技を行う担当か、
演技の補助を行う生徒
かの種別を選択し
てください。

演技の補助を行う生徒は、その内
容を記載してください。
また、配慮すべき障がい等がある
場合は、その内容を記載してくだ
さい。なお、記載を望まない場合は、
記載は任意とします。
その他、必要な補足情報を記載し
てください。

↑ 男・女(生徒)及び引率者の人数を入力。

【参加者一覧】

生徒、 引率	No.	学校名	氏名		ふりがな		学年	性別	演技担当 補助担当	備考
			姓	名	姓	名				
生徒										
引率										

- ※1 参加する生徒は、全て校長の推薦が得られた生徒としてください。
- ※2 予選参加者は、原則として、本大会に参加できる生徒としてください。
- ※3 演技の補助を担当する生徒については、備考欄にその役割を分かりやすく記載してください。
(例:障がいのある生徒の介助者、字幕表示担当、キュー出し担当(音響・照明) など)

第7回全国高校生手話パフォーマンス甲子園 チーム紹介文

1 0 0 文 字 以 内

第7回全国高校生手話パフォーマンス甲子園 予選審査演技情報

【演技内容】

①	演技の分類 (該当する項目の左に○) ※ 複数選択可	歌唱	ダンス	演劇	ポエム	コント	落語	
		漫才	その他 [_____]					
②	演技タイトル							
③	演技のコンセプト (300文字以内) 【文字数: ____文字】 ※ 入力した文字数を上に記載してください。 ※ 改行はしないこと。							
④	動画ファイルの再生時間 (3分以内)	分	秒					
⑤	使用楽曲	①	歌手名				使用音源	
			曲名				□CD音源 □自チーム制作 □当日演奏予定 □その他(_____)	
		②	歌手名				使用音源	
			曲名				□CD音源 □自チーム制作 □当日演奏予定 □その他(_____)	
		③	歌手名				使用音源	
			曲名				□CD音源 □自チーム制作 □当日演奏予定 □その他(_____)	
⑥	使用予定機材等							

【補足事項】

①演技の分類	該当する分類の左に「○」を入力してください。なお、例示している分類に当てはまらない場合は「その他」を選び、具体的な分類を端的に入力してください。
②演技タイトル	演技の内容を分かりやすく表現するため、演技タイトルを端的に表現してください。
③演技のコンセプト	審査員が審査を行うのにあたり、演技の意図をより深く理解するために記載していただくものです。
④再生時間	動画ファイルの再生時間を3分以内としてください。 ※ イン트로でのチーム紹介や終了後の余韻時間も含め、全て演技時間に含めます。 ※ 再生時間が3分を超える動画ファイルは、演技時間の超過となり減点となりますので、ご注意ください。
⑤使用楽曲	演技に音楽を使用する場合、その音源を記載してください。(該当する項目を■にしてください。) なお、「自チーム制作」とは、CD音源を一切使用せず、自チームで演奏や歌唱を収録した音源を使用することをいいます。(楽曲の改変(歌詞を変更したり、編曲するなど)する場合は、著作権者の許可が必要になります) いずれにも該当しない場合は、「その他」を選択し、その具体的な内容を(_____)の中に記載してください。
⑥使用予定機材	準備に時間を要しない簡単な小道具等のみ使用可能です。本大会で使用を予定している小道具等があれば記載してください。 なお、設置に1分以上を要するような大道具や機材等は認められませんので、ご注意ください。 また、会場にない設備等を使用したい場合は、原則として自チームで準備してください。(設置に時間を要しないものに限る。) ※ 詳細は、本大会前に舞台監督と打ち合わせをしていただくことになります。

(別添)

個人情報、肖像権及び著作権の取扱いについて

手話パフォーマンス甲子園実行委員会（以下「主催者」という。）は、「第7回全国高校生手話パフォーマンス甲子園」（以下「大会」という。）への参加における個人情報、肖像権及び著作権について、以下のとおり取り扱うこととします。

1. 個人情報

- (1) 大会公式プログラムに氏名、所属校、学年を掲載します。
- (2) 大会の会場でアナウンス、スクリーン等により氏名、所属校、学年を紹介することがあります。
- (3) 手話パフォーマンス甲子園公式サイト（Facebook、Twitter、LINE、YouTube を含む。以下「公式サイト」という。）及び大会報告書、PR 動画等の主催者の制作物に氏名、所属校、学年を掲載することがあります。
- (4) 大会関係者、報道機関、後援団体、協力機関等に氏名、所属校、学年を情報提供することがあります。
- (5) (2)から(4)までに記載した方法により、大会結果（チーム成績を含む。）とともに参加者の氏名、所属校、学年を公表することがあります。
- (6) 参加者から提供されたすべての個人情報は、大会出場に係る連絡及び通知、大会に関する統計（個人を特定できない範囲での利用とする。）等、大会に関する目的で使用することがあります。

2. 肖像権及び著作権

- (1) 大会プログラム及び公式サイトに参加者から提供された写真を掲載します。
- (2) 1の(2)から(4)までに記載した方法により、参加者から提供された写真を公表することがあります。
- (3) 予選審査動画を公表、編集及び改変することがあります。
- (4) 主催者、報道機関、後援団体、協力機関等により撮影された参加者の映像が、中継、放送及びインターネット配信により公開されることがあります。また、当該映像がDVD等に編集され、配布されることがあります。
- (5) 主催者、報道機関、後援団体、協力機関等により撮影された参加者の写真（電子データを含む。）が公式サイト、新聞、雑誌、大会報告書等の印刷物及びインターネット等に掲載されることがあります。
- (6) 主催者が撮影した映像若しくは写真又は予選審査動画を大会関係者、報道機関、後援団体、協力機関等に提供することがあります。
- (7) その他、主催者に許可を受けた者によって撮影された映像及び写真が公開されることがあります。
- (8) 主催者が撮影した映像及び写真の著作権は主催者に帰属するものとし、当該映像及び写真の利用及びこれに伴う編集、改変についての異議申し立て等は受け付けません。

3. 主催者としての対応

主催者が取得した参加者の個人情報は、上記利用目的以外に使用することはありません。ただし、主催者は、お預かりした個人情報を取り扱う業務の一部または全部を外部に委託することがあります。

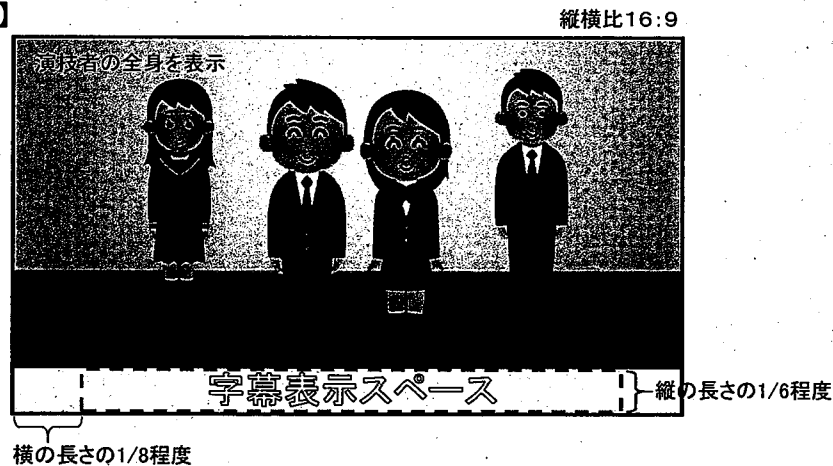


第7回全国高校生手話パフォーマンス甲子園予選審査動画撮影要領

1 撮影方法等

- 再生時間を3分以内の動画とすること。
※演技前後に余韻時間があれば、それらも含めて3分以内とすること。
※動画の冒頭に、学校名や演技タイトル等を表示する必要はない。
- フルカラーで撮影すること。
- 画面の横縦比は、16:9とすること。(4:3ではない)
- 演技者の正面でカメラを固定して撮影すること。演技中、ズームやワイド等の倍率の変更及びカメラを移動させて撮影することは不可とする。
- 原則、背景に画像や動画を演出として使用しないこと。ただし、画像については演技の構成上、必要性がある場合は除く。(例:観光地の紹介に画像を投影する、パワーポイントの説明をする等)
- 演技者の全身を表示させること。なお、例外的に、動きがなく前後の列となる場合の後列の演技者や着席している場合は、その該当者に限っては少なくとも上半身を表示させればよい。
- 演技者の表情や手話がよく見えるように、演技者の大きさや明度を確保すること。
- 演技上のセリフ、歌詞、手話に対応する字幕を表示させること。
- 字幕は、セリフ等のタイミングに合わせて、固定表示すること。(文字が流れる字幕表示は不可)
- 字幕は、演技者に重ならないようにすること。
- 画面上の演技者の配置や字幕表示は、下記の「動画映像のイメージ」を参考にすること。

【動画映像イメージ】



【字幕についての補足】

- ・字幕スペースは、画面下部に設け、縦:画面の縦の長さ1/6程度、横:左右に1/8程度の余白を空けた範囲を目安とする。
- ・なるべく見やすい大きな文字とし、フォントはゴシック体、色は白文字又は白文字・黒枠を基本とする。ただし、背景に応じて見やすい文字色としてよい。
- ・セリフ等のタイミングに合わせるため、字幕表示が2行になっても構わない。

【その他補足】

- ・手話表現は、顔の表情も大切な要素のため、表情が分かるよう、演出目的以外ではマスク等を着用しないこと。
- ・本大会で使用を予定している小道具等を使用することは可能。
- ・参加生徒全員が常に、映像内に映っている必要はない。(演技構成によっては、舞台出入りにより一部の生徒のみでの演技場面もあり得るため)
- ・予選審査動画は、本大会の演技(8分以内)の一部を3分以内で連続した動画にする方法、ポイントごとに編集したダイジェスト動画にする方法のいずれでもよい。
- ・なお、本大会に向けて予選審査時のパフォーマンスを発展的に進化させることもあるため、内容・志向が全く異なる演技(演劇→漫才など)に変更しなければ、予選審査と本大会のパフォーマンスが全く同一の作品となる必要はない。

2 動画のファイル形式等

- 動画のファイル形式は、AVI、MPEG、MP4、WMV のいずれかとする。
- 解像度は、原則、720px×480px 以上、1920px×1080px以内とすること。
- フレームレートは、原則、60(59.94)fps又は30(29.97)fpsとすること。

第7回全国高校生手話パフォーマンス甲子園 予選審査及び本大会出場チーム選考実施要領

1 予選審査会の概要

- (1) 日程 令和2年7月30日(木)及び31日(金)
- (2) 場所 鳥取市内
- (3) 補足
 - ア 具体的なスケジュールや会場は、後日、大会公式ホームページにて公表する。
 - イ 予選審査結果の発表は、7月31日(金)に行う。
 - ウ イの発表は、公開の上行う。また、発表会の様子は、「手話パフォーマンス甲子園☆動画チャンネル」(YouTube)上でライブ中継を行う。なお、発表後、大会公式ホームページに結果を掲載する。

2 審査員

審査員は、ろう者2名及び聞こえる人2名の4名とし、このうち1名を審査員長とする。

3 審査方法

各審査員が各チームから提出を受けた予選審査動画を視聴の上、4の採点方法に基づき審査及び採点し、その合計を各チームの審査得点とする。

4 採点方法

- (1) 各審査員が、次の表に掲げる審査項目を担当項目別に採点する。

審査員	手話言語の正確性・ 分かりやすさ	演出力・ パフォーマンス度	合計
ろう者	(30点満点)	(30点満点)	(60点満点)
ろう者	(30点満点)	(30点満点)	(60点満点)
聞こえる人		(40点満点)	(40点満点)
聞こえる人		(40点満点)	(40点満点)
合計	(60点満点)	(140点満点)	(200点満点)

- (2) 各審査項目の採点の観点は次のとおりとする。

ア 手話言語の正確性・分かりやすさ

手話言語が正しく表現されているか。顔の表情も使って、分かりやすく表現されているか。演技者が表現したい内容が手話言語で伝わり、理解できるか。

イ 演出力・パフォーマンス度

チームとしての一体感があるか。機知に富み観客を魅了する表現力、ひたむきさがあるか。演技者が込めた思いやメッセージがしっかりと伝わってくるか。構成や演出がよく工夫されているか。演技の構成がスクリーンの表示に頼りすぎたものになっていないか。

- (3) 演技等が次に該当する場合は、当該各号に記載のとおり失格又は審査得点から減点とすることとし、審査員の協議(減点の点数の定めがないものは、その点数も含む。)により決定する。なお、協議の結果、意見がまとまらない場合は、審査員長が決定する。

項目	内容
差別的表現、わいせつ表現、特定の個人・団体の誹謗中傷、その他公序良俗に反する内容が含まれる場合	失格
第三者の権利を侵害する内容が含まれる場合	失格
本大会では準備に大幅に時間を要する又は使用(再現)できないことが明らかな大道具、設備、演出等の使用	失格
演技上のセリフや歌詞、手話言語に対応した字幕の表示が不十分な場合	10点減点
演技制限時間(動画の再生時間。3分。)を超過した場合	10点減点
その他、定められた動画の撮影方法に反した場合※	5点減点
その他、不適切と認めた演技又は行為	失格又は減点

※ 「その他、定められた動画の撮影方法に反した場合」とは、以下のとおりとする。ただし、その違反の程度が軽微で、審査に影響がない場合を除く。

- ・演技者の正面で撮影していない場合。
- ・カメラを固定せず、ズームやワイド等の倍率の変更及びカメラを移動させて撮影している場合。
- ・背景に画像や動画を演出として使用している場合。ただし、画像については、演技の構成上、必要性がある場合は除く。
- ・演技者の全身が表示されていない場合。ただし、演技者の動きがない場合で前後の列となる場合の後列の演技者や着席している場合は、該当する演技者に限って手話言語が見えるよう少なくとも上半身を表示させればよい。
- ・映像の明度が非常に低く、演技者の表情や手話言語がよく見えない場合。
- ・字幕が認識しづらい場合（文字の大きさが非常に小さい、文字色が薄い、背景と同化しているなど）。
- ・字幕を固定して表示していない（文字が流れる字幕表示をしている）場合。
- ・字幕が演技者と重なっている場合。

5 本大会出場チームの選出

(1) 地方ブロック枠（6チーム）

応募チームを所在地別に6つの地方ブロック（北海道・東北ブロック、関東ブロック、中部ブロック、近畿ブロック、中国・四国ブロック、九州・沖縄ブロック）に振り分け、各ブロックで審査得点が最も高いチームを本大会出場チームに選出する。

(2) 得点順枠（6チーム以上）

(1)の選出チームを除き、審査得点が高い順に6チームを本大会出場チームに選出する。

(3) 合同チーム枠（1チーム）

(1)及び(2)の選出チーム以外に、聴覚障がいを対象とする特別支援学校高等部とその他の学校で構成する合同チームの中で審査得点が最も高いチームを本大会出場チームに選出する。

(4) 初出場枠（1チーム）

(1)から(3)までの選出チーム以外に、これまで本大会に出場したことがないチームの中で審査得点が最も高いチームを本大会出場チームに選出する。なお、複数校による合同チームの場合は、全ての構成校がこれまで本大会に出場したことがない場合のみを対象とする。

(5) 開催地枠（1チーム）

(1)から(4)までの選出チームの中に開催地（鳥取県）のチームが含まれていない場合に限り、開催地（鳥取県）のチームの中で審査得点が最も高いチームを本大会出場チームに選出する。

(6) 補足

ア (1)、(3)、(4)及び(5)の各枠の選考の対象となるチームがなく、本大会に出場するチームを選出できないときは、各枠のチーム数を(2)の本大会選出チームの数に加えることとする。

イ (3)及び(4)の選出対象となるチームは、各チームの申告も参考に、事務局が判断する。

ウ 審査得点が同点となり、順位を審査得点では決められない場合は、以下のとおり順位を決定する。

(ア)「手話言語の正確性・分かりやすさ」の審査項目の高いチームを上位チームとする。

(イ) (ア)が同点の場合は、審査員の多数決で上位チームを決定する。

(ウ) (イ)が同点の場合は、審査員長が順位を決定する。

6 本大会での演技順

(1) 先ず、開催地枠、初出場枠、合同チーム枠の各選出チームの順に演技を行うこととする。なお、各枠の選出チームがない場合は、演技順を繰り上げるとともに、そのチーム数を(2)のBグループに加えることとする。

(2) 4番目以降の演技順については、(1)を除く12の本大会出場チームを2つのグループに分け、審査得点が下位の5チームをBグループ、上位の7チームをAグループとして、各グループ内で演技順を抽選する。本大会ではBグループ、Aグループの順に演技する。

なお、当該抽選は、予選審査結果の発表後に続いて行うものとする。

7 予選審査結果の通知及び公表

(1) 参加申込みチームに対し、予選審査結果（本大会出場又は落選）、審査得点及び審査員評（審査員名は非公開）を通知する。また、失格となったチームに対しては、その旨を通知することとする。なお、辞退し

たチームについては、通知しない。

(2) 本大会出場チームについては、チーム名及び審査得点を大会公式ホームページに掲載する。

8 その他

(1) 本大会出場チームの中から、選手宣誓を担当する1チームを選出する。なお、選手宣誓を担当するチームは、予選審査結果の発表時に抽選を行い、決定するものとする。

(2) 予選の参加申込みを行ったものの、期限までに予選審査動画を提出しなかったチームは、失格とする。

(3) 予選の参加申込みを行ったチームは、予選審査会の前日までに自由に参加を辞退することができる。この場合、まずは事務局にその意思を申し出るとともに、辞退届を提出すること。なお、本大会出場チームに選出されたチームが本大会の出場を辞退することは、原則として認めない。

【別記】 地方ブロックについて

ブロック名	都道府県名	ブロック名	都道府県名
北海道・東北ブロック	北海道 青森県 岩手県 宮城県 秋田県 山形県 福島県	近畿ブロック	三重県 滋賀県 京都府 大阪府 兵庫県 奈良県 和歌山県
関東ブロック	茨城県 栃木県 群馬県 埼玉県 千葉県 東京都 神奈川県	中国・四国ブロック	鳥取県 島根県 岡山県 広島県 山口県 徳島県 香川県 愛媛県 高知県
中部ブロック	新潟県 富山県 石川県 福井県 山梨県 長野県 岐阜県 静岡県 愛知県	九州・沖縄ブロック	福岡県 佐賀県 長崎県 熊本県 大分県 宮崎県 鹿児島県 沖縄県

第7回全国高校生手話パフォーマンス甲子園

本大会審査実施要領

1. 概要

- (1) 日程 令和2年9月27日(日)
 (2) 場所 倉吉未来中心 大ホール(鳥取県倉吉市)

2. 審査員

審査員は、ろう者3名及び聞こえる人3名の計6名とし、このうち1名を審査員長とする。

3. 審査方法

5の採点方法に基づき、各審査員が各チームの演技を審査、採点し、その合計を各チームの審査得点とする。

4. 演技時間等

- (1) 演技時間は、6分以上8分以内とする。
 (2) 演技は、司会者が「どうぞ」と演技開始の声掛けを行ったときから開始し、生徒の「ありがとうございました」の発声又は手話をもって終了する。
 (3) 各チームの演技時間の実績は、主催者が計測した時間とする。なお、演技時間の開始及び終了のタイミングは、(2)に基づき(不明確な場合も含め)主催者が判断することとする。
 (4) 舞台上に演技時間の経過を示すライト(4色カラー)を設置する。カラー表示は以下のとおりとする。

・演技開始後	→ 白
・6分経過(演技時間下限到達。残り2分前)	→ 青
・7分30秒経過(残り30秒前)	→ 黄
・8分超過(演技時間上限超過)	→ 赤

- (5) 演技の準備時間は、概ね1分以内とする。
 (6) 演技は舞台上の定められたエリア内で行うこと。また、演技者である生徒以外が舞台に立つことは認められない。なお、障がい等により、演技を行う際に補助が必要な場合は、舞台の下や袖から補助動作を行うことは認める。(合図を出す、リズムを示す、音声通訳を行う等)

5. 採点方法

- (1) 各審査員が、次の表に掲げる審査項目を担当項目別に採点する。

審査員	手話言語の正確性・ 分かりやすさ	演出力・ パフォーマンス度	合計
ろう者	(30点満点)	(30点満点)	(60点満点)
ろう者	(30点満点)	(30点満点)	(60点満点)
ろう者	(30点満点)	(30点満点)	(60点満点)
聞こえる人		(40点満点)	(40点満点)
聞こえる人		(40点満点)	(40点満点)
聞こえる人		(40点満点)	(40点満点)
合計	(90点満点)	(210点満点)	(300点満点)

- (2) 各審査項目の採点の観点は次のとおりとする。

ア 手話言語の正確性・分かりやすさ

手話言語が正しく表現されているか。顔の表情も使って、分かりやすく表現されているか。演技者が表現したい内容が手話言語で伝わり、理解できるか。

イ 演出力・パフォーマンス度

チームとしての一体感があるか。機知に富み観客を魅了する表現力、ひたむきさがあるか。演技者が込めた思いやメッセージがしっかりと伝わってくるか。構成や演出がよく工夫されているか。演技の構成がスクリーンの表示に頼りすぎたものになっていないか。

- (3) 演技等が次に該当する場合は、当該各号に記載のとおり失格又は審査得点から減点とすることとし、審査員の協議（減点の点数の定めがないものは、その点数も含む。）により決定する。なお、協議の結果、意見がまとまらない場合は、審査員長が決定する。

項目	内容
差別的表現、わいせつ表現、特定の個人・団体の誹謗中傷、その他公序良俗に反する内容が含まれる場合	失格
第三者の権利を著しく侵害する内容が含まれる場合	失格
演技者である生徒以外の者が舞台上に立ち入り、演技又は演技の補助を行った場合	20点減点
定められた演技時間の上限を超過した場合 (例：8分を超え8分30秒まで△10点、8分30秒を超え9分まで△20点)	超過30秒ごとに 10点減点
定められた演技時間の下限(6分)に達しなかった場合	10点減点
演技上のセリフや手話言語に対応した字幕の表示が不十分な場合	10点減点
その他、定められたルールに反した場合※	5点減点
その他、不適切と認められる演技又は行為	失格又は減点

※ 「その他、定められたルールに反した場合」とは、以下のとおりとする。ただし、その違反の程度が軽微で、特に審査等に影響がないと判断される場合は除く。

- ・1分を大幅に超えて準備に時間を要した場合。
- ・スクリーンに表示する内容に動画を使用した場合。
- ・舞台上の定められたエリア以外で演技を続けた場合。
- ・演技終了の合図（「ありがとうございました」の発声又は手話）を全く行わず、演技を終了させた場合。

6 表彰チームの決定方法等

- (1) 優勝、準優勝及び3位は、審査得点の順により決定する。
- (2) 審査得点が高点となり、順位を審査得点で決められない場合は、以下のとおり順位を決定する。
 - ア 「手話の正確性・分かりやすさ」の審査項目の高いチームを上位チームとする。
 - イ アが高点の場合は、審査員の多数決で上位チームを決定する。
 - ウ イが高点の場合は、審査員長が順位を決定する。
- (3) 審査員特別賞は、審査員で協議の上、審査員長が決定する。
- (4) 全日本ろうあ連盟賞は、全日本ろうあ連盟が決定する。
- (5) 日本財団賞は、日本財団が決定する。
- (6) 鳥取県聴覚障害者協会賞は、鳥取県聴覚障害者協会が決定する。
- (7) その他、上記受賞チーム以外の全ての本大会出場チームに手話パフォーマンス奨励賞を授与する。

7 結果通知及び公表

- (1) 大会終了後、各チームに対し、審査得点、順位及び審査員評（審査員名は非公開）を送付する。
- (2) 本大会出場チームについて、チーム名及び審査得点（優勝、準優勝及び3位に限る。）を、大会公式ホームページに掲載する。

第7回全国高校生手話パフォーマンス甲子園 手話パフォーマンスアドバイザー派遣実施要領

1 目的・概要

全国高校生手話パフォーマンス甲子園（以下「大会」という。）の予選参加校の手話パフォーマンスや取組み意欲の向上等により、大会全体のレベルアップや裾野の拡大を図るため、手話言語及び演技の表現等についてアドバイスができる者（以下「手話パフォーマンスアドバイザー」という。）を希望する学校に派遣するもの。

2 内容

(1) 派遣募集対象校

以下を満たす高等学校等とする。

- ・これまで本大会（本選）に出場した経験がないこと
- ・これまで手話パフォーマンスアドバイザーの派遣を受けたことがないこと
- ・第7回大会に参加申込予定であること
- ・手話パフォーマンスアドバイザーの派遣時期までに演技構成や内容が概ね作成できていること

(2) 派遣校の数

4校程度

(3) 派遣校の決定

応募のあった高等学校等の中から、手話パフォーマンス甲子園実行委員会事務局（以下「事務局」という。）が厳正に抽選し、手話パフォーマンス派遣校を決定する。

(4) 派遣する時期・回数

令和2年5月下旬から7月中旬までの間に1回

(5) 派遣する者

手話パフォーマンスアドバイザーを各校に1名派遣

(6) アドバイザーの調整・決定

派遣校の演技予定内容・分野、地域等を踏まえ、事務局において派遣するアドバイザーを調整・決定する。

なお、手話パフォーマンスアドバイザーは、ろう者又はろう者以外のいずれかの者と、各演技分野の活動に携わっている者を予定している。

(7) アドバイス内容

手話言語表現や演技内容についてのアドバイスを行う。

3 募集

(1) 募集期間

令和2年4月1日（水）から5月15日（金）まで

(2) 申込先

別添申込書により、6に記載する事務局へメール又はファクシミリにて申し込むこと。

4 その他

(1) アドバイザー及び手話通訳者の派遣に要する経費は、手話パフォーマンス甲子園実行委員会が負担する。ただし、経費負担する時間は4時間を上限とする。

(2) アドバイスを受ける会場は、学校が準備すること。

(3) 手話通訳が必要な場合は、学校が都道府県聴覚障害者協会等の協力を得ながら、アドバイスを円

滑に手話通訳できる者を手配すること。

(4) 派遣時の写真等は、大会公式ホームページへの掲載等、大会広報に使用する場合があります。

(5) 派遣後、実施状況や意見・感想についてのアンケート回答に協力すること。

5 スケジュール (予定)

- ・アドバイザー派遣募集 4月1日(水)から5月15日(金)まで
- ・派遣校の決定(抽選) 5月中・下旬
- ・アドバイザー調整 //
- ・アドバイザー派遣 5月下旬から7月中旬までの間のうち1日

【参考：第7回大会に係るスケジュール】

- 参加募集 5月18日(月)から7月3日(金)まで
- 予選審査動画提出 7月17日(金)まで
- 予選審査・結果発表 7月30日(木)及び7月31日(金)
- 本大会 9月27日(日)

6 問合せ・申込先

〒680-8570 鳥取市東町一丁目220番地

手話パフォーマンス甲子園実行委員会事務局

(鳥取県福祉保健部ささえあい福祉局障がい福祉課内)

電話：0857-26-7682 FAX：0857-26-8136 Eメール：s-koushien@pref.tottori.lg.jp

別添

第7回全国高校生手話パフォーマンス甲子園
手話パフォーマンスアドバイザー派遣申込書

年 月 日

手話パフォーマンス甲子園実行委員会 会長 様

1 申込者

学校名	
所在地	
担当者職氏名	
連絡先	電 話 ファクシ メール

2 アドバイザー派遣を希望する演技分野

以下のいずれかに○を記載

希望する分野	
歌唱	
ダンス	
演劇	

※派遣分野は原則上記の分野のみとし、いずれも手話言語表現を基本とするもの

3 派遣を希望する時期・場所等（予定）

日時	第1希望	第2希望	第3希望
	期日 時間	期日 時間	期日 時間
場所			
参加 生徒数	名程度		

※派遣日時は学校の希望及びアドバイザーの日程調整により決定

4 演技内容等

第7回大会の演技予定内容	
備考（特にアドバイスを受けた内容等があれば記載）	

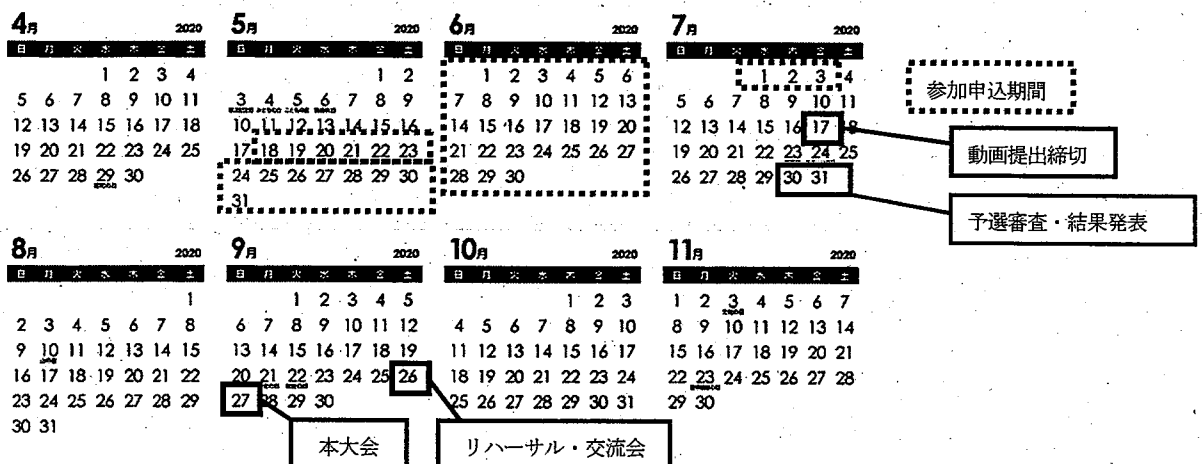
第7回全国高校生手話パフォーマンス甲子園の司会・審査員・ゲストについて

区分		氏名	所属等	備考	参考・第6回
総合司会		(調整中)	NHK鳥取放送局アナウンサー	進行に万全を期すため、プロアナウンサーをNHK鳥取放送局に推薦依頼。	NHK鳥取放送局アナウンサー原田裕和
演技司会	ろう者	早瀬 憲太郎 	ろう児対象の学習塾早瀬塾塾長	第1回から演技司会を務め、工夫を凝らした進行やペア司会者のフォローなど十分な実績がある。	早瀬 憲太郎
	聞こえる人	(調整中)	県内の高校生(女性)	第6回大会で早瀬氏と高校生の演技司会のペアが好評。学校等に適任の候補生徒を聞きながら選出。	鳥取敬愛高等学校 河口 真里奈
審査員	ろう者 (審査員長)	予選審査 庄崎 隆志 		審査委員長を第1回から務め、大会づくりに深く関わり、審査をまとめる重責を担っていただいている。	俳優・演出家 庄崎 隆志
	ろう者	予選審査 (調整中)	全日本ろうあ連盟推薦者	特別協力団体である全日本ろうあ連盟から審査員を選出(推薦)	全日本ろうあ連盟 副理事長 小中 栄一
	ろう者	(調整中)		手話、演技・表現活動に携わる者	NPO法人TA-net 理事長 廣川 麻子
	聞こえる人	予選審査 門 秀彦 	イラストレーター	手話を取り入れたイラスト制作、ライブペインティングや講演会などの活動を展開。第3回大会から審査員。	絵かき 門 秀彦
	聞こえる人	(調整中)		手話、演技・表現活動に携わる者	福岡ろう劇団博多 野上 まり
	聞こえる人	予選審査 (調整中)	鳥取大学関係者	鳥取大学附属芸術文化センターの県内の文化芸術の有識者に適任者を推薦依頼。	鳥取大学地域学部 教授 塩野谷 斉
ゲストパフォーマー		手話エンターテイメント発信団 OiOi(オイオイ) 		聞こえる・聞こえない人、社会人・学生など様々な団員が、来場者を巻き込む手話パフォーマンスのほか、ワークショップやイベント開催など手話への理解や魅力を広げる活動を展開。	劇団あしたの会

第7回全国高校生手話パフォーマンス甲子園に係る今後の日程（予定）について

令和2年2月17日現在

日程	内容	備考
令和2年1月31日(金)	R1 実行委員会総会	第7回大会開催決定、基本計画、R1 補正予算 等
令和2年2月17日(月)	R1 企画推進会議	第7回大会開催要項、予選審査・選考実施要領等
令和2年2月下旬	第7回大会の開催要項等の公表	
令和2年3月～4月	実行委員会（書面会議）	R2 年度収支予算及びR1 年度収支決算
令和2年3月～	第7回参加募集広報（チラシ、ポスターの送付等）	・全国の高等学校、特別支援学校等、各都道府県、政令指定都市、手話言語条例制定自治体、各都道府県全国ろうあ連盟加盟団体、県内各市町村等
令和2年4月～7月	手話パフォーマンスアドバイザー派遣募集、派遣	
令和2年5月18日(月)	参加申込み受付開始	
令和2年7月3日(金)	参加申込み期限	
令和2年6月～7月	R2 企画推進会議 情報保障コードチーム会議	第7回大会実施計画等
令和2年7月17日(金)	予選審査動画の提出期限	
令和2年7月30日(木) 7月31日(金)	予選審査会 結果発表	動画審査、結果発表、本大会演技順番・選手宣誓チームの決定
令和2年8月	企画推進会議委員への予選結果等の報告（又は企画推進会議開催）	必要に応じて会議開催等
令和2年8月28日(金)	ヒアリングシートの提出	演技内容の詳細（シナリオ・楽曲等）の報告
令和2年9月26日(土)	第7回全国高校生手話パフォーマンス甲子園リハーサル、交流会	リハーサル：倉吉未来中心 交流会：鳥取看護大学・鳥取短期大学シグナスホール
令和2年9月27日(日)	第7回全国高校生手話パフォーマンス甲子園本大会	倉吉未来中心
令和2年10～11月	R2 企画推進会議 情報保障コードチーム会議	第7回大会開催結果の報告、第8回大会開催案の検討等
令和3年1～2月	R2 実行委員会総会	第7回大会開催結果の報告 第8回大会開催決定、第8回大会基本計画、等
令和3年2月	R2 企画推進会議	第8回大会の開催要項、予選審査・選考実施要領等



令和元年度手話パフォーマンス甲子園実行委員会収支予算書

(1)収入の部

(単位:円)

科目	予算	補正額	補正後 予算額	主な補正理由	備考
助成金	30,000,000	0 ※下記差額参照	30,000,000		日本財団助成金(対象事業費80%) ※精算に伴う実績減分3,360千円は次年度に繰越後返還
負担金	15,120,000	△ 2,710,728	12,409,272	精算(実績見込)に伴う減	鳥取県負担金(対象事業費20%+お成り経費(県独自)+第7回大会広報費(県独自))-諸収入)
協賛金	1,950,000	△ 44,000	1,906,000	精算(実績見込)に伴う減	協賛金
手数料	180,000	12,676	192,676	精算(実績見込)に伴う増	応援自販機手数料
雑入	100,000	△ 6,920	93,080	精算(実績見込)に伴う減	寄付金、預金利息
繰越金	1,137,037	0	1,137,037		H30年度からの繰越金
合計	48,487,037	△ 2,748,972	45,738,065		

※負担金は、県が独自に収支しなければならない部分を勘案し、日本財団80%、県20%となるよう設定済み

(2)支出の部

科目	予算	補正額	補正後 予算額	主な補正理由	備考
実行委員会運営費	700,000	△ 170,025	529,975	精算(実績見込)に伴う減	実行委員会の開催経費等
広報宣伝費	5,087,037	△ 1,375,817	3,711,220	精算(実績見込)に伴う減	TV番組制作委託、広告、チラシ・ポスター制作費等
大会開催費	11,175,000	△ 2,517,375	8,657,625	精算(実績見込)に伴う減	会場使用料、出場チーム旅費等助成、表彰物品等
大会運営委託費	31,525,000	△ 2,045,755	29,479,245	精算(実績見込)に伴う減	大会企画運営委託業務(大会運営・広報物制作・出演者等経費)等
合計	48,487,037	△ 6,108,972	42,378,065		

差額

3,360,000

→ R2年度の日本財団の監査後に返還する助成金として次年度に繰り越し

